

埋文よこはま20



財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 平成21年9月18日発行

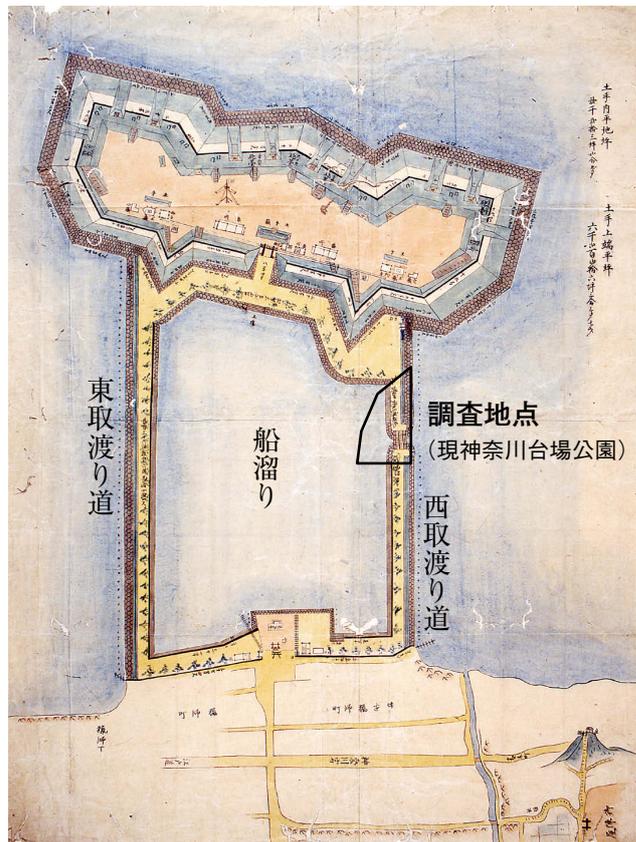
だいば 神奈川台場を発掘しました！

とりわた
横浜港を監視した台場 取渡り道の調査

◆神奈川台場とは？

神奈川台場は横浜開港の際に、その防衛を目的として対岸2.5kmの地点に築かれた台場です。横浜港の向岸には、江戸時代に東海道の宿場町として栄えた神奈川宿がありました。その浜辺より200m程沖合いに、磯子で切り出された土丹や背後の権現山の土砂を積み上げて人工的な島を作り、石垣をめぐらせて大砲を備え付けたのです。幕臣勝海舟の設計によるもので、2本の渡り土手(取渡り道)によって陸地と接続させ、その間を船溜りとして利用していたようです。このような特異な構造の台場は、全国でも大変珍しいものです。

神奈川台場の工事は伊予松山藩が命じられ、突貫工事でわずか1年で完成します。横浜開港の1年後の万延元年(1860)のことでした。実際には台場の砲は一度も実戦に使用されたことはなく、もっぱら式典などの祝砲・礼砲のみで、明治32年(1899)には横浜の外国人居留地の廃止に伴って、その役割を終えます。その後は、周辺の海域が徐々に埋め立てられ、現在では所々に石垣が残るのみとなっています。



「神奈川台場図」 横浜開港資料館蔵 ※一部加筆

今回の調査地点である「神奈川台場公園」は西取渡り道の付け根部分にあたる。公園範囲南部では船溜りに通じる水路があり橋がかけられていた。



神奈川台場の遠景(明治20年代) 野渡圭一氏提供

周辺がまだ埋め立てられていない。西取渡り道には松が見える。



遺跡の位置



「横浜市全圖」大正2年(1913) 横浜開港資料館蔵 ※一部加筆

周囲が埋立地となったが、まだ台場の輪郭が残る。



6トレンチで見つかった水路に面した石垣(南西より)

明治期の図面と異なり、直線的なラインで積まれている。

◆西取渡り道の発掘調査

今年には横浜開港150周年です。横浜市では、この記念すべき年に神奈川台場公園のリニューアル計画を立てました。公園の敷地は、ちょうど西取渡り道の船溜り側の側辺にあたります。横浜市神奈川区役所から依頼を受けた当埋蔵文化財センターでは、昨年の6～7月と11月の2回にわたり発掘調査を行いました。

1・2次調査両方で合計12か所の調査区画を設け、重機と人力で掘り下げ、取渡り道の痕跡を探しました。

残念ながらほとんどの調査区で、取渡り道が大きく壊されていることがわかりました。どうやら関東大震災の影響の可能性が高いようです。しかし、いくつかの調査区では取渡り道の構造がよく残っている様子が確認できました。一つは西取渡り道が途切れている所です。ここは二本の取渡り道に挟まれた船溜りに、外側から船が入れるようにあけてある所ですが、この小さな水路に面した石垣がよく残っていました。小松石と呼ばれる石材を楔形に加工し、頭の面を四角く整形してよくそろえて積んであります。もう一つは、台場本体に程近い場所で、土丹が堅固に叩き締められた下段の上に海砂と土丹が交互に積まれた上段が乗る構造が明らかになりました。この二段の土丹層は取渡り道の基部と考えられます。

横浜市では、現在、公園整備の設計を進めており、発掘成果を公園のリニューアル計画に反映する予定です。案内板も設置されますので、ぜひ現地で開港当時の台場をのんびりみて下さい。



発掘された西取渡り道の基部(12トレンチ 北西より)

黄灰色の白っぽい土丹で造られている。右が「上段」。



調査時の神奈川台場公園(北西より)

取渡り道はすっかり埋没しているが、周辺を散策すると台場本体の石垣を見学できる場所もある。

催し物ご案内

○講座 「横浜の考古学」2009

海辺の生活 —氷河期から明治まで—

今年横浜開港150周年です。開港記念にちなんで、今回の講座では考古学の成果から、各時代の横浜の海辺の生活を描き出します。ふるってご参加ください。

11月12日(木)

1. 気象の大変動—氷河期から縄文海進へ—
2. 縄文の海と人々の生活

石井 寛 (埋蔵文化財センター)

11月19日(木)

3. 弥生・古墳の半農半漁村落—横浜の海浜集団—
4. 神奈川台場と外国人居留地

鈴木重信 (埋蔵文化財センター)

◇日時 11月12日・19日(木) 全2回
13:30~15:40 (13:00開場)

◇会場 横浜市歴史博物館 講堂

◇定員 150人 (二日とも参加できる方)
※申し込み多数の場合抽選

◇費用 1,000円(資料代)

◇申込方法 往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、「横浜の考古学」受講希望の旨を明記した上で、埋蔵文化財センターへ郵送してください。

◇申込締切 10月25日(日) 必着

◇申込先・連絡先

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760
(財)横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
TEL 045-593-2406 FAX 045-593-2403

○展示 「横浜の遺跡展」2009

再現！弥生集落・古代集落 ～北川表の上遺跡の調査成果から～

80年代に発掘された都筑区北川表の上遺跡は、弥生・古代の集落が丸ごと調査された重要遺跡です。報告書完成を記念し多くの出土品を展示します。乞うご期待！

◇会期 平成21年12月12日(土)～
平成22年1月11日(月・祝)
9:00~17:00(入館は16:30まで)

◇会場 横浜市歴史博物館 企画展示室
※横浜市指定考古資料展と同時開催

◇観覧料 無料

関連イベント

講演会 「科学の力で古代を探る！

—北川表の上遺跡の発掘成果と科学分析—

集落跡から出土した鉄製品や火災で炭になったお弁当等。最先端技術による分析法を専門家が解説します。

◇日時 12月19日(土)
14:00~16:00(13:30開場)

◇会場 横浜市歴史博物館 講堂

◇定員 150人 ※申し込み多数の場合抽選

◇費用 500円(資料代)

◇申込方法 往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、「横浜の遺跡展」講演会受講希望の旨を明記した上で、埋蔵文化財センターへ郵送してください。

◇申込締切 12月7日(月) 必着

◇申込先・連絡先

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760
(財)横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

TEL 045-593-2406

※センター移転後は新住所・新電話番号に自動的に転送されます。

フロアレクチャー (調査研究員による展示解説)

◇日時 12月20日(日)、1月11日(月・祝)
11:00・14:00の1日2回 1回40分程度

◇会場 横浜市歴史博物館 企画展示室

◇費用 無料

◇定員 当日先着30名

○体験学習

楽しい勾玉づくりと拓本とり

石を削って磨いて勾玉を作ったり、本物の土器の模様を写し取ったりする体験学習です。小学生以上対象で、親子でも大人だけでも参加できます。

- ◇日時 第7回 平成21年12月19日(土)
第8回 平成22年2月27日(土)
いずれも午前部 9:30~12:00
午後部 13:30~16:00

- ◇会場 埋蔵文化財センター(旧野七里小学校)
◇募集人数 各回15人(抽選)
◇参加費用 400円(材料費込み)
◇申込方法 往復はがきかファックスに、住所、氏名、電話番号のほかに、希望日時、参加人数、「埋文よこはま」を見て応募した旨を書いて、次の申し込み先へ。1回で複数人数の申し込みができます。

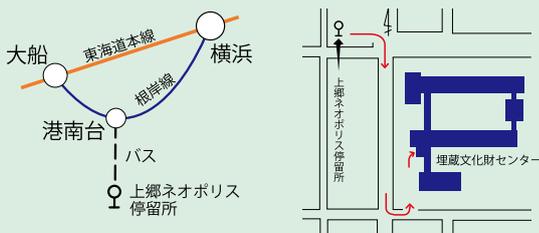
- ◇申込期間 開催日の前月15日~開催月15日
(曜日不問・必着)

- ◇申込先・連絡先
埋蔵文化財センターが10月に移転します。
次の移転後の住所・連絡先までお願いいたします。

埋蔵文化財センター移転のお知らせ

平成21年10月末に埋蔵文化財センターが次の住所に移転します。

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1(旧野七里小)
JR根岸線港南台駅よりバス(上郷ネオポリス行)
で20分、上郷ネオポリス下車徒歩1分
TEL 045-890-1155 FAX 045-891-1551
新センターは11月30日(月)にオープンします。
引き続き、当センターのご利用をお待ちしています。



*「埋文よこはま」は、横浜地域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

○横浜開港150周年記念イベント

日本オーストリア交流年2009認定事業



JAPAN-AUSTRIA
2009

「口琴：音のひろがり」

手のひらサイズの小さな楽器「口琴」。それはユーラシア各地にひろがる魅力的な楽器です。開港150周年を祝う横浜の地で、びよ〜んという不思議な倍音が響くイベントを横浜ユーラシア文化館と共に開催します。

口琴：ワークショップとレクチャーコンサート

- ◇開催日：2009年10月11日(日)

- ◇会場：シルクロード舞踏館
(横浜市中区山下町80 チャイハネ ネネB1)

- A 入門編ワークショップ 13:30~15:00
ベトナムのモン族の真鍮製口琴を使って、実際に演奏に挑戦してみましょう。(指導：日本口琴協会)
B レクチャーコンサート 16:00~17:30
オーストリアの口琴奏者による、ユーモラスでスリリングな口琴持ち替え演奏技法の紹介と解説。

- ◇定員：A・B各60人 ◇参加料：A・B各2,000円

コンサート「口琴：音のひろがり」

- ◇開催日：2009年10月12日(月・祝)

- ◇会場：横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1-6)
オーストリア、ロシア連邦トゥバ共和国、そしてアイヌ民族等の口琴音楽を一流演奏家が披露。また、ベートーヴェンの師の一人、アルブレヒツベルガー作曲「口琴とマンドーラのための協奏曲」を日本初演いたします。

チケット：3,000円 ※e+ (<http://epuls.jp/>) 等で販売

【申込・チケット購入・問合せ先】

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
横浜ユーラシア文化館 口琴係り
TEL：045-663-2424
FAX：045-663-2454

※詳しくは横浜ユーラシア文化館ホームページをご覧ください。
<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/exhibition/index.html>

埋文よこはま 20

発行日 2009年9月18日
編集・発行 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760
TEL 045-593-2406
FAX 045-593-2403